

鶴ヶ島市立鶴ヶ島第二小学校

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校教育目標・教育方針	教職員	①私は、学校教育目標や教育方針を理解し、達成できるよう努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>・学校評価について、概ね周知できている結果である。児童、保護者、地域については一層の周知を要する結果となり、課題である。</p>
	児童	①私は、学級目標や個人目標を達成するために努力している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>・学校ホームページや各種便り、懇談会などで折に触れて周知を図っていく。</p>
	保護者	①私は、学校教育目標や教育方針を知っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・ホームページによる情報発信はとても有効である。学校の様子がよくわかるので安心できている。</p>
	地域	①私は、学校教育目標や教育方針を理解している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

鶴ヶ島市立鶴ヶ島第二小学校

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学級経営	教職員	②私は、児童のよさや可能性を發揮できる学級経営を行っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果について の分析・課題</p> <p>・概ね肯定的な評価であった。わずかながら「そう思わない」と感じている児童の自己有用感を高めていく取組を進めていくことがこれからの課題である。</p>
	児童	②私は、学級での生活が楽しいと感じている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□系列1 □系列2 □系列3 □系列4 □系列5</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>・職員に対しては特別支援的な配慮を踏まえた児童へのかかわり方の研修を引き続き行う。 ・各種活動を通して集団への所属感、達成感等を味わわせることで改善を図っていく。</p>
	保護者	②学校は、児童のよさや可能性を發揮できる学級づくりをしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・上の学年の児童が下の学年児童を思いやるような行動を登下校中の際に見かけることがある。お互いを思いやり、助け合うことが自分からできている。 ・鶴二小の低学年の子供たちは人懐っこく、自己アピールもたくさんしてくる。学校を楽しんでいることが伝わってくる。</p>
	地域	②学校は、児童のよさや可能性を發揮できる学級経営を行っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

鶴ヶ島市立鶴ヶ島第二小学校

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学習指導①	教職員	③私は、児童が意見を主体的に発表したり、他者の意見を聞いたりして学びを深める授業を実践している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>・概ね肯定的な評価であった。「そう思わない」と感じている児童が主体的に学びに向かえるようにすることが課題である。</p>
	児童	③私は、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれながら勉強している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>・「一人残らず学ぶ教室」の実現に向けた研修と授業改善の取組を引き続き取り組む。</p>
	保護者	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・鶴二小の子供たちはとても素直である。また人の話をよく聞いて返事もできている。話を聞けるといふ姿勢が身につくように感じる。 ・鶴二小の子供たちにはできるだけ自立のできる、自分の考えを持てる子になってほしいと考えている。</p>
	地域	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

鶴ヶ島市立鶴ヶ島第二小学校

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学習指導	教職員	④私は、学習目標達成のために学習用端末や大型モニタ等のICT機器を活用して、わかりやすく工夫した授業を行っている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実感に比べ保護者、教職員の数値が順に低くなっている。保護者がニュース等から得ているICT機器の活用イメージと本校の実際の取組の差が原因と考えられる。同じく教職員の活用リテラシーの認識不足や先進校の取組イメージと実際の差異による自己評価の低さが原因と考えられる。
	児童	④私は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりして、積極的に授業に参加している。		<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校におけるICT活用の取組の一層の周知をホームページや各種便り等で行う。 ・ICTの活用に関する職員研修を実施し、活用の充実に努める。
	保護者	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の項目に比べ、先生たちの肯定的な評価が低く感じる。来年度は先生たちが「活用している」と感じられるように数値の向上を期待したい。 ・AIに頼りきりにならず、児童が思考すべきところは思考する学習場面を持つてほしい。 ・GIGAスクール構想を進めていくことに伴って生じるかもしれない危険性(目の健康やSNSいじめなど)もある、今はないだろうがそうならないようにしてほしい。
	地域	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。		

鶴ヶ島市立鶴ヶ島第二小学校

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
体力	教職員	⑤私(学校)は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育や運動について苦手意識を持っている児童の回答が芳しくない状況が見受けられる。保護者や地域については、体力向上の取組が見えづらく、状況が分からないために肯定的な評価が低かったと考えられる。
	児童	⑤私は、体育や休み時間に、校庭や体育館などいろいろな運動をして、体力をつけようと努力している。		<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上にかかる取組の周知(ホームページ、各種便り) ・体育的行事や体育カードでの振り返りの強化
	保護者	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間の様子を見ると、元気に遊んでいる様子で安心する。 ・行事等でうかがうことができるが、具体的な体力向上については詳しく評価することが難しい。
	地域	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。		

鶴ヶ島市立鶴ヶ島第二小学校

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導 ①	教職員	⑥私は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭と連携・協力しながら対応している。	<p>29% 65% 6% 0%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概ね肯定的な評価である。解決しようとしていることに思い当たらない回答の中には、「その経験がない(トラブルになっていない)」ものも一定数存在していると思われる。 ・教職員についても、臨んだ形での対応に至っていないと自己反省の意味合いによる評価も含まれていると考えられる。
	児童	⑥私は、いじめやトラブルなどの問題に対して、先生やおうちの人に相談し、一緒に解決しようとしている。	<p>44% 36% 14% 5% 0%</p>	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童、保護者については「相談してよかった」「一人で困ったことを抱え込まない・込ませない」ことが実感できる取組を進めていく。 ・教職員対象の生徒指導対応に関する研修を進め、組織的対応力を高める。
	保護者	⑥学校は、いじめやトラブルなどの問題に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	<p>19% 73% 7% 0%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の評価が、比較的他の項目よりも数値が低く感じる。今年度よりも向上することで安心な学校になると思う。 ・不登校の現状を確認し、解決に向けて努力してほしい。
	地域	⑥学校は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	<p>29% 52% 5% 0% 14%</p>	

鶴ヶ島市立鶴ヶ島第二小学校

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導②	教職員	⑦私は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力学習状況調査等より児童の自己評価がやや低いことが判明しており、今回の調査もその関連が予想される。
	児童	⑦私は、自分のよさや可能性を伸ばしたり、友達との関わりを大切にしながら、自分の目標に向かって行動したりしている。		<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種学校行事等で自己実現、自己有用感を高められるよう実施内容の充実や、見通しや振り返り(見届け)を確実に実施していく。 ・縦割り活動をはじめとした特別活動の取組を進める。
	保護者	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の数値において、比較的他の項目よりも評価が低く感じる。今年度よりも向上することで安心な学校になると思う。 ・登下校中の子どもたちのあいさつを聞いていると、年度当初は元気がないように感じたが今(2月現在)は元気にあいさつ返してくれる子が多くなった。
	地域	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。		

鶴ヶ島市立鶴ヶ島第二小学校

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
特別支援教育	教職員	⑧私は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	<p>6% 76% 18% 0% 0%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援的対応を必要とする児童の増加により、その必要性の高まりと実態との違いが明確になっているものと考えられる。
	児童	⑧私は、苦手なことなどを、先生やおうちの人に相談し、一緒に解決しようとしている。	<p>41% 35% 17% 7% 0%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援的対応についての研修を進めていく。 ・保護者や地域への情報提供、取組の様子の発信をより活発に行う。また教育相談週間等を活用し、児童理解と教育相談を進めていく。
	保護者	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	<p>23% 63% 13% 0% 0%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比較的他の項目よりも評価が低く感じる。今年度よりも向上することで安心な学校になると思う。 ・家庭の貧困など、困窮の状態によって平等な環境で授業を受けられないといったことのないようにこれからも学びの機会の均等を図ってほしい。
	地域	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	<p>24% 57% 5% 0% 14%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

鶴ヶ島市立鶴ヶ島第二小学校

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
地域とともにある学校	教職員	◎私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校応援団、授業支援ボランティア等のそれぞれの活動については積極的に取り組まれているが、横断的な取組による「チーム学校」の組織力強化については改善の余地がある。
	児童			<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校というプラットフォームをベースに、児童・保護者・各協力者(グループ)が協力、連携できる行事や学習活動を展開していく。 ・学校応援団のすそ野の拡大、活動の幅広い展開を進め、「地域とともにある学校」の実現に向けてさらなる情報発信を進めていく。
	保護者	◎私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに協力している。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページなどで常に情報を発信していることが評価につながっていると感じる。 ・これからも積極的な発信をしてほしい。応援団や保護者の活動の励みにもなっていると思う。 ・高齢化、人材不足が課題である。どうにかして増やせないか。
	地域	◎私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。		

鶴ヶ島市立鶴ヶ島第二小学校

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察													
働き方改革	教職員	⑩私は、働き方改革の目的を理解し、業務改善を進め、心身ともに健康であるよう努めながら、教科指導や教育相談等に係る時間を増やし、教育の維持・向上に努めている。	<table border="1"> <caption>Horizontal Bar Chart Data</caption> <thead> <tr> <th>Response Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① (Blue)</td> <td>18%</td> </tr> <tr> <td>② (Yellow)</td> <td>71%</td> </tr> <tr> <td>③ (Green)</td> <td>12%</td> </tr> <tr> <td>④ (Grey)</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>⑤ (White)</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Response Category	Percentage	① (Blue)	18%	② (Yellow)	71%	③ (Green)	12%	④ (Grey)	0%	⑤ (White)	0%	評価結果について の分析・課題	・業務改善を進めながら働き方改革に取り組んでいる最中である。超過勤務時間の縮減は進んでいるが、時間の有効活用(教材研究など子供に還元していくこと)についてはまだ改善の余地がある。
	Response Category	Percentage															
	① (Blue)	18%															
	② (Yellow)	71%															
③ (Green)	12%																
④ (Grey)	0%																
⑤ (White)	0%																
児童				課題解決への方策	・まずはハード面での改善(超過勤務時間の縮減)を引き続き進める。ソフト面(生まれた時間的余裕を子供に還元すること)についても先進的な事例等を周知するなどしてその実現を図っていく。 ・引き続き職員だけでなく保護者や地域にも取り組みや考えを情報発信していく。												
保護者				学校関係者評価委員会による評価	・鶴二小は前向きな変革に積極的な姿勢を感じる。												
地域																	